

## <平成31(2019)年産いちご主要病害虫の発生経過>

本年作では、7月までは高温多照、10月以降は小雨・多照になるなど、全般に気温が高く経過しました。保温開始後も、降水量が少なかったため、うどんこ病、灰色かび病等の病害の発生は少なく経過しましたが、アブラムシ類、アザミウマ類等の害虫の発生が増加しました。

### 1 炭疽病

8月までの育苗期は平年より少ない発生でしたが、10月以降、本ぼでの発生が平年より多く見られました。

健全な苗の育成に努め、予防的に薬剤散布を行うとともに感染株を確認し、本ぼに持ち込まない等の未然防除対策を実施しましょう。

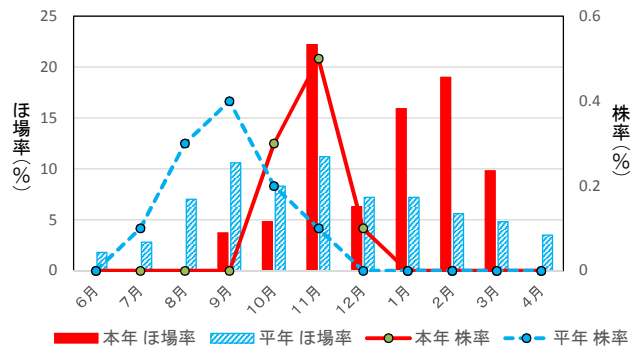


図1 炭疽病発生ほ場率・株率

### 2 萎黄病

育苗期から本ぼ定植後を通して平年より少ない発生でしたが、11月以降に発生ほ場が確認されました。

発生が見られたほ場では、発病株等の残渣を適切に処分するとともに土壌消毒を徹底しましょう。また、乾燥等根傷みしやすい環境では発生が助長されますので、かん水の量や回数に注意しましょう。

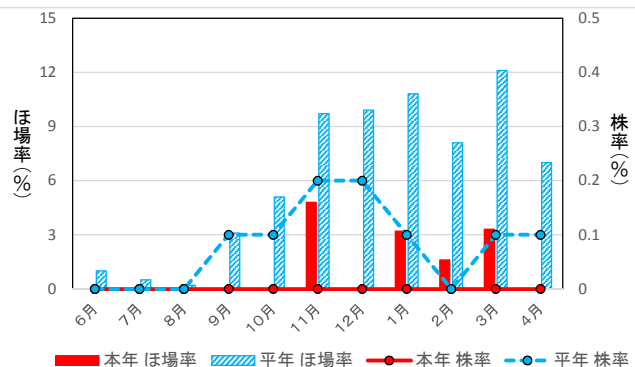


図2 萎黄病発生ほ場率・株率

### 3 うどんこ病

6月から7月の育苗期に発生が見られたものの、平年より少ない発生でした。本ぼ定植後も平年より少ない発生で経過しました。

本病は比較的低温性の病害のため、夏季の高温時には発生が停滞しますが、予防散布を継続的に行うことで秋季以降の発生を抑えることができます。

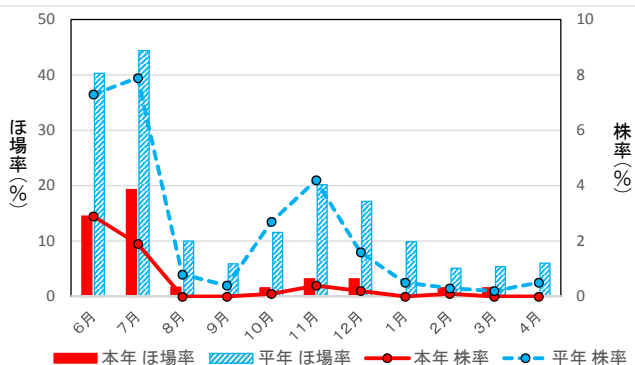


図3 うどんこ病発生ほ場率・株率

#### 4 灰色かび病

2月以降に発生が見られたものの、平年より少ない発生でした。

本病は多湿条件で多く発生しますので、下葉を除去して風通しをよくするとともに、かん水過多にならないよう注意し、薬剤を丁寧に散布しましょう。

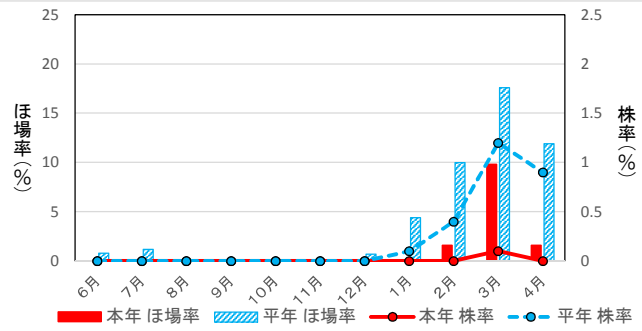


図4 灰色かび病発生ほ場率・株率

#### 5 ハダニ類

育苗期から本ぼ定植後の栽培期間を通して発生が見られましたが、平年より少ない傾向でした。

12月から1月にかけて発生が増加しますので、早期発見・早期防除に努めるとともに、葉裏にも薬剤がよくかかるよう丁寧な散布や適正な葉かきの管理を心がけましょう。

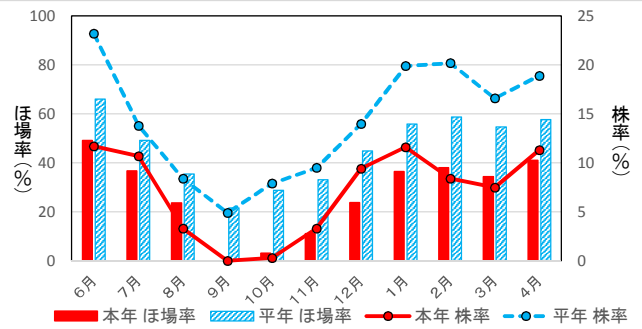


図5 ハダニ類発生ほ場率・株率

#### 6 アブラムシ類

栽培期間を通して発生が見られ、特に1月以降は増加し、平年より多く発生しました。

早期発見・早期防除に努めるとともに、葉裏にも薬剤がよくかかるよう丁寧な散布を心がけましょう。

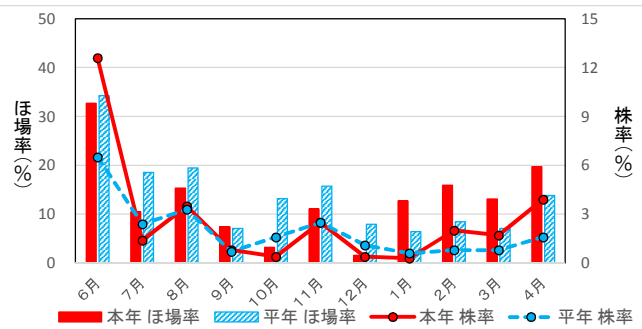


図6 アブラムシ類発生ほ場率・株率

#### 7 アザミウマ類

11月に発生が目立ち、その後減少しましたが、2月以降増加し、平年よりやや多い発生となりました。

本害虫が発生すると果実の加害により、品質が著しく低下します。早期発見・早期防除を心がけましょう。

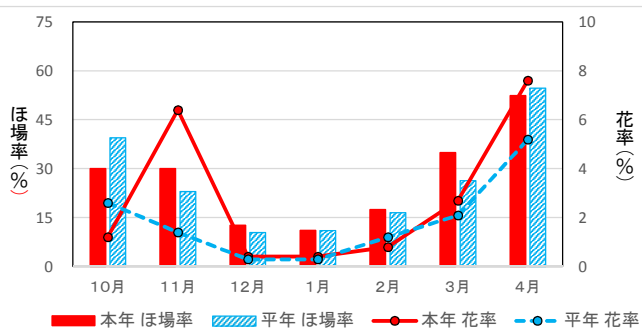


図7 アザミウマ類発生ほ場率・花率

次作に向けて、育苗期間中に病虫害防除を徹底し、本ぼへの持ち込みを防止しましょう。